

特集① 自然災害に備える

6月は土砂災害防止月間です。雨の季節となり大雨などによる風水害も発生しやすい時期です。

特に、近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加によって、日本各地で激甚な土砂災害が頻発しており、毎年、人的被害が発生しています。

今月号では、その自然災害についての知識や、日頃からの備えについて特集します。



集中豪雨をもたらす「線状降水帯」とは？

「線状降水帯」という積乱雲の集合体を皆さんはご存知でしょうか。

昨年7月に九州を襲った豪雨では、「線状降水帯」という言葉が話題となりました。

「線状降水帯」とは、前線や低気圧に向かって湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定になって、狭い範囲に発達した積乱雲が帯状に連なる気象現象です。

発生すると短時間で急激な大雨になってしまうため、土砂災害や洪水が発生する危険度が一気に高まってしまいます。

このため、気象庁は、大雨をもたらす「線状降水帯」が発生した場合に新たな情報を出し、警戒や安全確保を呼びかけることとしています。



○ 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている「線状降水帯」の雨域

※「雨雲の動き」(高解像度降水ナウキャスト)の例

気象情報の把握

災害が起こる恐れがあるかを判断する目安としては、気象庁が発表する注意報および警戒が一つの判断材料となります。テレビやラジオなどで随時放送される気象情報に十分注意してください。また、防災行政無線から伝えられる防災情報についても注意深く聞きましよう。

※Yahoo!防災速報もありますのでご利用ください。



備えるアプリ
Yahoo! 防災速報

松浦市では、様々な防災情報をスマートフォンやタブレットなどでお知らせします。ぜひ、ご利用下さい。



▲ iPhone



▲ Android

警戒レベル	新たな避難情報等	
5	災害発生 又は切迫	緊急安全確保※ 1
～～ 《警戒レベル 4 までに必ず避難！》 ～～		
4	災害のおそれが高い	避難指示※ 2
3	災害のおそれあり	高齢者等避難※ 3
2	気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	早期注意情報 (気象庁)

避難情報を正しく理解しましょう。

避難情報を住民にわかりやすく伝えるため避難指示(緊急)と避難勧告を一本化するなどの災害対策基本法が5月20日に改正されました。

① 早期の避難を促す対象者を明確にするため、警戒レベル3の名称が「高齢者等避難」に見直されました。

② 避難のタイミングを明確にするため、警戒レベル4の「避難勧告と避難指示(緊急)」が「避難指示」に一本化されました。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
警戒レベル5 緊急安全確保の発令を待ってはいけません！

避難勧告は廃止されました。これからは、警戒レベル4 避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3 高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

- ※ 1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。
- ※ 2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。
- ※ 3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。



災害への備え

大雨や地震などによる被害は人の力では食い止めることができません。被害をできるだけ少なくするために普段から対策を講じることが必要です。

【ライフラインの停止に備える】
災害時は、電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まる可能性があります。普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。

また、避難した際に必要となるものをリュックなどに詰めておき、いつでも持ち出せるように備えておきましょう。

非常用持出品の準備・確認をしよう

非常用持出品

- 非常食、飲料水
- 生活用品(衣類など)
- 懐中電灯
- ヘルメット
- 貴重品
- 救急医療品、常備薬
- 携帯ラジオ、予備電池など

感染拡大防止のための持出品

- マスク・消毒液・体温計は、できるだけ各自で持ってきてください。避難所では体調確認のため検温等にご協力いただくことがあります。
- 衛生用品がない場合には、代用品を準備してください。
マスク→タオルやハンカチなど(鼻と口を覆えるもの)
消毒液→ウエットティッシュなど



※必要物品の調整とともに重量の調整も必要です。備蓄量も家庭によって異なります。

自主防災組織を作ろう

災害時はもちろん、日頃から地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

大震災や豪雨による大規模災害時には、建物の倒壊や火災・橋梁等の損壊が同時に多発します。

この他にも、電話の不通や電気・ガス・水道等の使用が出来なくなります。

大規模な災害が発生した時には、公的機関が行う活動（公助）が迅速に対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域ぐるみでの活動が必要となります。

災害発生直後、一定の間は、市民一人ひとりが自分たちの地域と自らの命は、自分たちで守ることが必要です。

自主防災組織数（令和3年4月1日時点）

松浦市 (世帯数 10,086)	46 (37.0%)
県北地域 (世帯数 150,822)	692 (77.7%)
長崎県全域 (世帯数 630,731)	3,153 (74.8%)

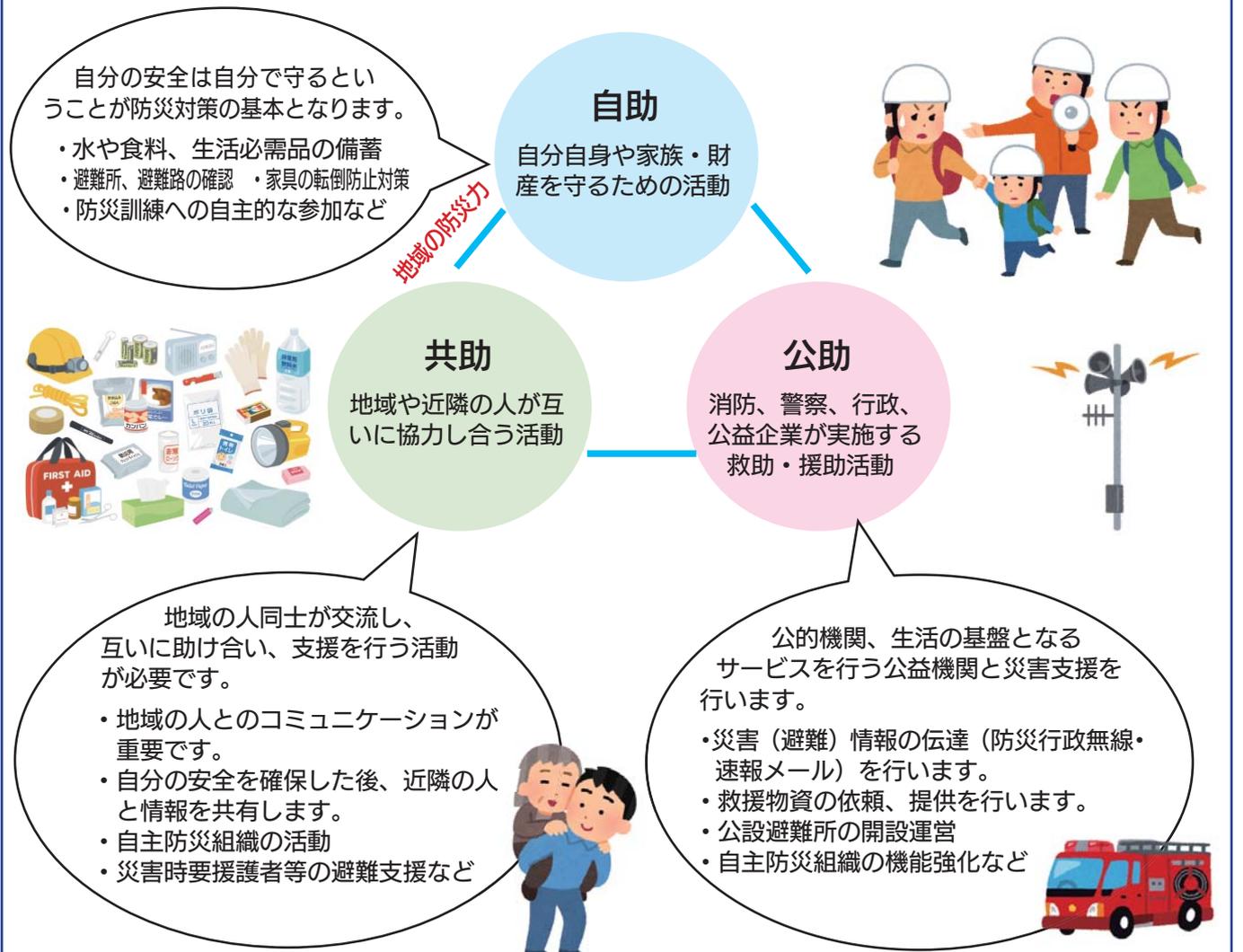
※%は、自主防災組織に加入する世帯の割合

そのためには、出火の防止、初期消火、災害情報共有、避難誘導、救出救護、応急手当等の自主的防災活動が求められます。

しかしながら、本市においては自主防災組織の組織率が県内でも低い状況となっており、組織率の向上が大きな課題となっています。

自助・共助・公助

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。



特集① 自然災害に備える

自主防災組織の取り組みについて、志佐町・大浜東地区の区長、白波育司さんにお話を伺いました。



大浜東地区では、平成24年3月に自主防災組織を設立しました。

始めた頃は、住民の関心をどう高めていくか悩んだこともありましたが、総会やイベントなどの空き時間を利用して呼びかけや卓上訓練を行い、現在では地区の約8割の世帯が組織の活動に参加しています。

大浜東地区では、災害時に行政と連絡を行う総務班、住民を支援する避難誘導班を設けており、毎年11月には地区の避難訓練を実施しています。

市内には、活動費用や後継者の問題から、設立を迷っている地区があると聞いています。

大浜東地区では、宝くじ助成金を活用して各世帯に防災用品を配布しています。防災に関する住民の意識が変化したと感じています。

組織の立ち上げは、ハードルが高いと思われるがちですが、自分たちができることから取り組むことが大切です。



▲購入した防災用品

市では、自主防災組織の結成を呼びかけるとともに、組織化への支援を行っています。

市民一人ひとりが防災に関心を持ち、「備える」「できることをする」「ことが、いざという時に自らの命、家族の命、地域の人たちの命を守ることにつながります。自主防災組織がない地区においては、結成に向けていざという時の皆さんで話し合ってみてください。

【問合せ先】防災課防災安全係
☎内線329



▲大浜東地区 現地での勉強会の様子

災害時の新型コロナウイルス感染症拡大防止のためお願い

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、**危険な場所にいる人は避難することが原則**です。

知っておくべきポイント

- 安全な場所にいる場合は、避難所へ行く必要はありません。
- 避難先は公民館や学校ではありません。避難所の過密状態を防ぐため、**安全な場所に住んでいる親戚や友人の家への避難も検討してください。**
- 水や食料、体温計、マスク、消毒液など、必要なものはできるだけ携行しましょう。
- 豪雨時に屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況などを十分確認してください。

避難所での注意点

- 3密（密集・密閉・密接）を避け、避難所での衛生管理（**手洗い・手指消毒・咳エチケット等**）を徹底してください。
- 発熱などの症状がある場合には、すぐに避難所の担当者へお伝えいただき、指示を受けてください。